

地域枠・地域の医師確保に関する全国調査（2025年度版）

中間報告書

2026年2月27日

全日本医学生自治会連合 第42期中央執行委員会

本調査及び本報告書の背景・目的

医療需要が増大している現代の日本において、地域的な医師偏在の是正は非常に重要な課題であると認識されています。対策として、特定地域で一定期間従事することを要件とする別枠入試制度（いわゆる地域枠制度）が注目され、2008年度からは医学部臨時定員の設定と併せて全国的に地域枠の増加が加速しました。2025年度は全国地域枠等の定員が1837人（全定員の19.8%）にのぼり、約5人に1人の入学者が地域枠を利用している状況です。地域枠の医師の地域定着率は9割弱¹と他の入学枠の医師と比較して高く、医療施設に従事する若手医師の数は医師多数都道府県よりも医師少数都道府県において顕著に増加しており²、地域枠は医師の偏在対策として一定の効果が認められています。

一方で、従事要件等に関して、都道府県と地域枠学生または医師の間でトラブルになるケースが全国各地で見られ、医学連にも相談が寄せられました。この背景には、地域枠離脱防止のために、専門医資格の所得を困難にすることや一部の都道府県において高額な違約金を設定するなどの規制的側面が強化されてきたという経緯があります。

このような状況に対して、医学連は過去に2回全国規模のアンケート調査を実施し、学生がこの制度をどう評価しているのか、各地でどのような問題事例があるのか、といった点について学生視点の実態を調べました。前回（2021年度）の調査では、地域枠入学者に対する事前説明の不十分さ、入学後の制度変更、入学後の支援体制の不十分さ等の問題があることが示唆されました³。

「地域枠・地域の医師確保に関する全国調査（2025年度版）」は、前回の調査に引き続いて地域枠制度の実態および地域医療に関する学生の意識を調べ、その結果から、より良い地域枠および医師の偏在是正政策のあり方を構想することを目的として実施されました。本報告書は、上記調査結果を速報する目的で、詳細な考察は省略し、結果を中心に取りまとめたものです。

方法

2025年11月18日～2026年2月28日を回答期間とし、全国の医学生を対象に紙媒体、Web上（google form）で自記式アンケート調査を実施しました。アンケートには、働き方・キャリアの志向、キャリア相談体制、地域枠制度についての意識を問う設設問が含まれました。

¹ 厚生労働省、第2回医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会 資料1、医学部臨時定員と地域枠等の現状について、p15、<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/001214420.pdf>

² 35歳未満の医療施設従事医師数は、平成24年度を基準として令和2年に医師多数都道府県で5.1%増、医師少数都道府県で20.1%増だった。（同上、p19）

³ 全日本医学生自治会連合、地域枠・地域の医師確保に関する全国調査2021年度版 報告書、2022年

結果

0. 回答者の属性

中間報告の取りまとめまでに、全国53大学から2007件の回答を得ました。

図1. 回答者の性別 (n=2007)

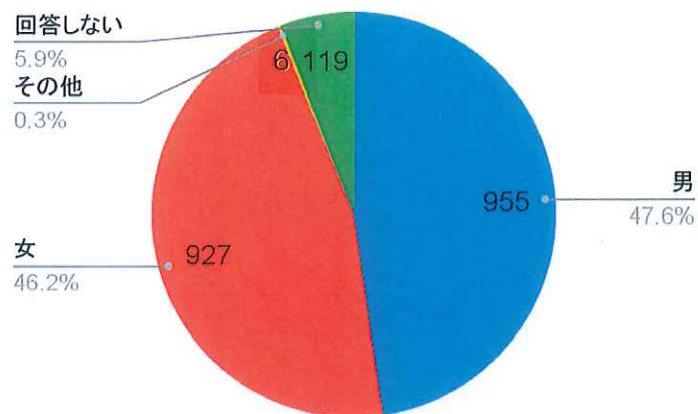


図2. 回答者の学年 (n=2005)

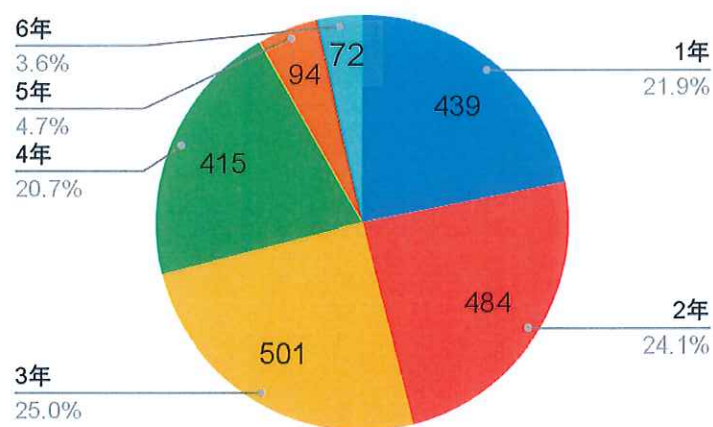


図3. 回答者の入学形態 (n=1970)

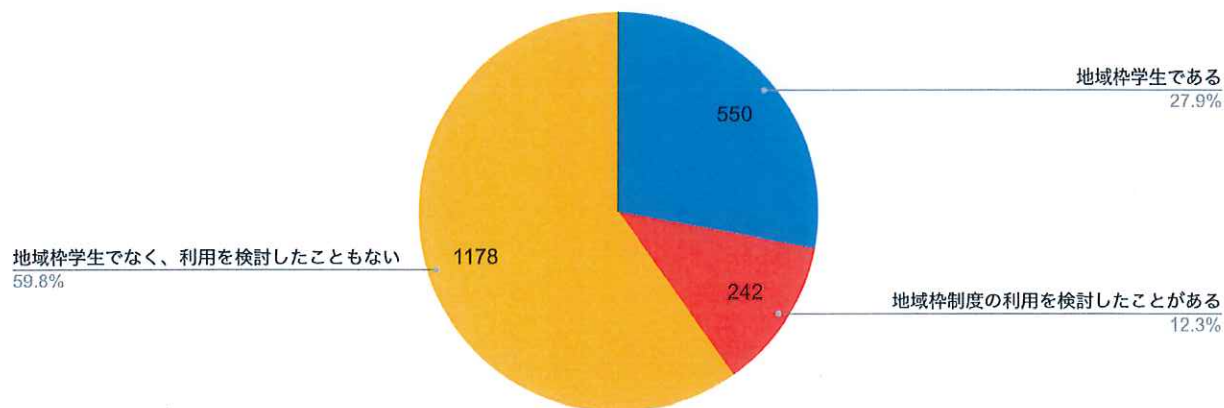


表1. 回答者の所属大学 (n=2006)

大学名	回答者数	大学名	回答者数
北海道大学	1	藤田医科大学	1
札幌医科大学	3	三重大学	2
弘前大学	355	滋賀医科大学	18
東北大学	2	京都大学	3
東北医科大学	19	京都府立医科大学	12
秋田大学	23	大阪公立大学	2
山形大学	6	関西医科大学	5
福島県立医科大学	17	近畿大学	6
筑波大学	5	神戸大学	7
獨協医科大学	1	兵庫医科大学	3
群馬大学	10	奈良県立医科大学	11
埼玉医科大学	2	和歌山県立医科大学	367
国際医療福祉大学	22	鳥取大学	75
東京大学	4	島根大学	319
杏林大学	1	岡山大学	18
帝京大学	1	山口大学	1
北里大学	9	徳島大学	145
聖マリアンナ医科大学	8	愛媛大学	1
東海大学	1	高知大学	319
新潟大学	4	久留米大学	1
金沢医科大学	1	産業医科大学	2
福井大学	26	佐賀大学	1
山梨大学	43	長崎大学	2
信州大学	1	大分大学	3
岐阜大学	46	宮崎大学	54
浜松医科大学	1	琉球大学	15
名古屋市立大学	1	不明	1

表2. 回答者の出身地 (n=1927)

出身地	回答者数	出身地	回答者数
北海道	35	滋賀県	16
青森県	116	京都府	47
岩手県	16	大阪府	256
宮城県	23	兵庫県	176
秋田県	11	奈良県	42
山形県	13	和歌山県	127
福島県	15	鳥取県	19
茨城県	34	島根県	57
栃木県	13	岡山県	75
群馬県	24	広島県	47
埼玉県	28	山口県	5
千葉県	57	徳島県	58
東京都	116	香川県	13
神奈川県	68	愛媛県	21
新潟県	11	高知県	73
富山県	0	福岡県	27
石川県	4	佐賀県	3
福井県	10	長崎県	3
静岡県	42	熊本県	10
山梨県	18	大分県	4
長野県	29	宮崎県	25
岐阜県	34	鹿児島県	4
愛知県	61	沖縄県	25
三重県	13	海外	3

1. キャリア志向とキャリア相談の環境

1-1. あなたは将来、どのように医療に関わることを考えていますか。現時点で考えているものを、＜各項目＞から選んでください。

図4. 〈勤務する地域〉 (n=1987)

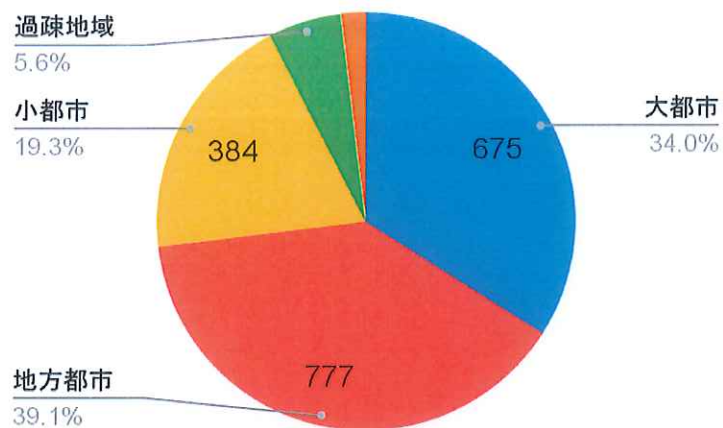


図5. 〈職種〉 (複数選択可) (n=1996)

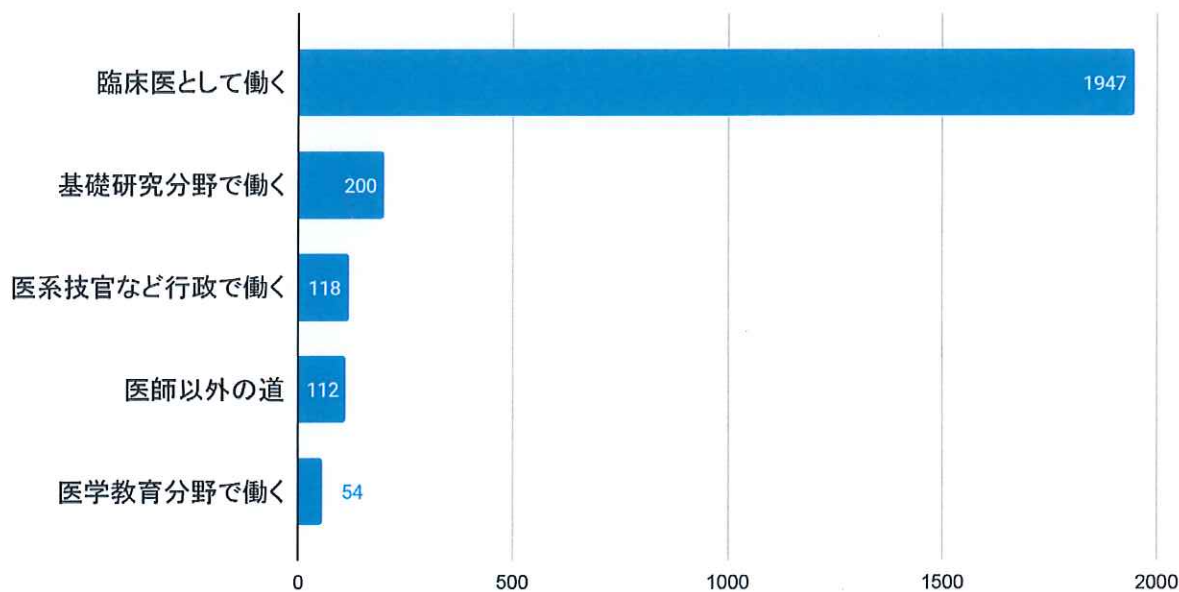


図6. 〈勤務形態〉 (複数選択可) (n=1972)

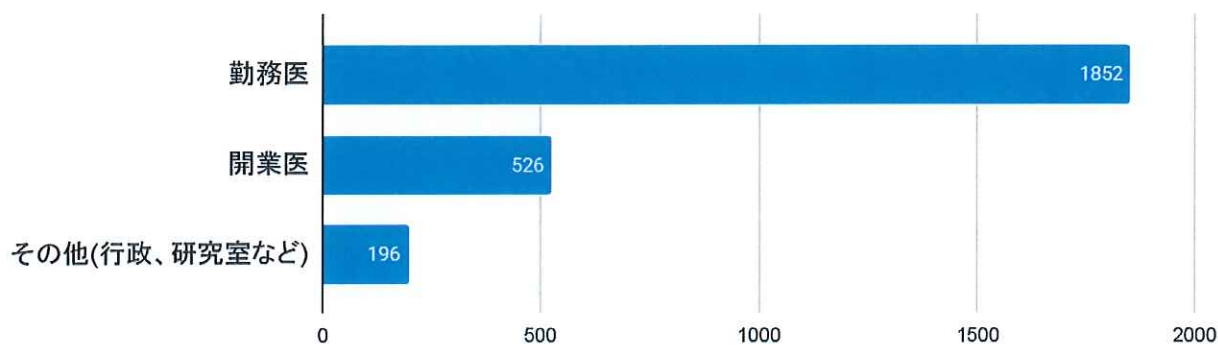


表3. 「1-2. 設問 1-1 の回答について、そのキャリアを考えている理由、重要視している点があれば教えてください。」 (n=703)

表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

分類	回答数
キャリア形成・専門性	207
地域・勤務地に関する要因	204
ライフスタイル・生活要因	144
価値観・動機	113
経済・雇用条件	89
制度・制約	40
親の影響	8
人間関係	6

図7. 「1-3. 在学中の悩みや卒後のキャリアについて、誰に相談しますか。(複数選択可)」 (n=2002)

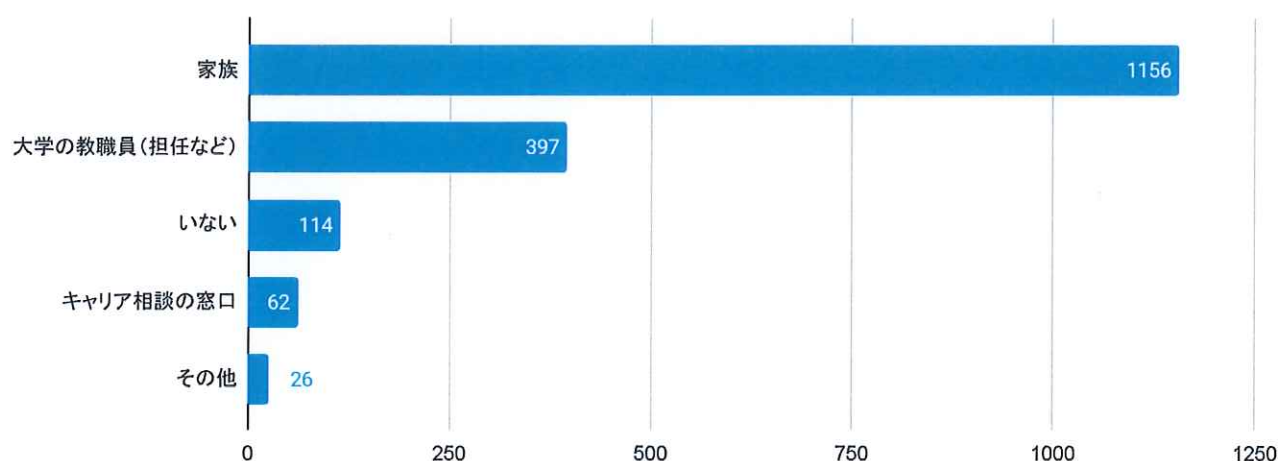


図8. 「1-4. 大学や都道府県に設置されているキャリア相談の窓口に相談はしやすいですか。当てはまるものを選び、その理由も教えてください。」 (n=2000)

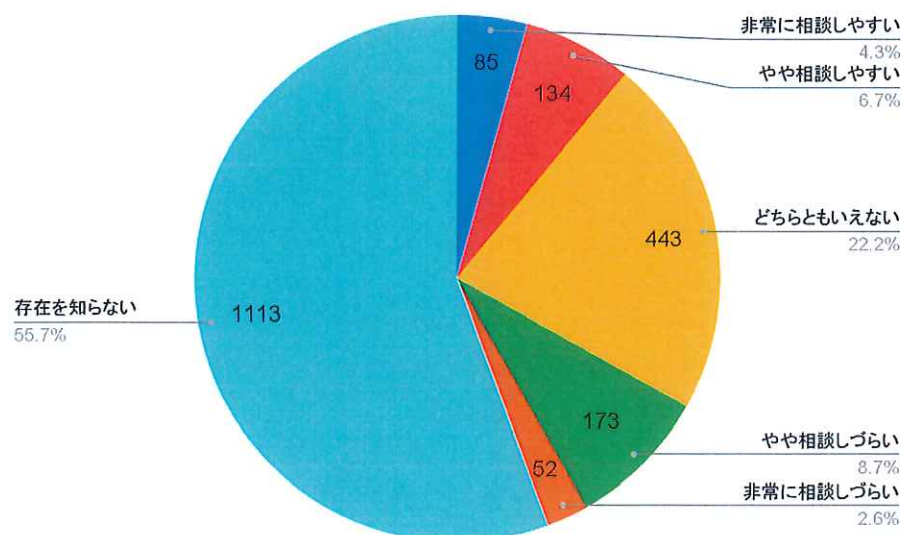


表4. 上記回答の理由 (n=541)

表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

	1-4選択肢の回答						
	合計	非常に相談しやすい	やや相談しやすい	どちらともいえない	やや相談しづらい	非常に相談しづらい	存在を知らない
合計	541	28	51	181	90	32	159
認知不足	227	3	10	60	38	12	104
アクセス	36	4	4	7	13	4	4
必要性	70	0	1	33	4	1	31
代替的相談先	25	6	6	5	2	0	6
ハードル	38	3	9	9	15	1	1
信頼性	69	9	11	10	17	13	9
過去の印象	15	3	8	1	1	1	1
未経験	61	0	2	56	0	0	3

(未分類9件)

上記分類ラベルの正確な意味合いは下記の通りです。

存在・制度の認知不足	・・・認知不足
利用方法・アクセスの不明確さ	・・・アクセス
必要性を感じていない	・・・必要性
代替的相談先がある	・・・代替的相談先
心理的ハードル・敷居の高さ	・・・ハードル
信頼性・中立性への懸念	・・・信頼性
過去の経験・印象による評価	・・・過去の印象
使ったことがない	・・・未経験

2. 地域医療に対する意識調査

回答者に対して、地域医療を次のように提示し、回答を得ました。

「以下では、地域医療に従事することを、医師の供給が需要を上回っていない地域で、地域住民に求められる医師として従事することであると定義します。」

図9. 「2-1. あなたは将来、地域医療に従事したいと思いますか。」 (n=1943)

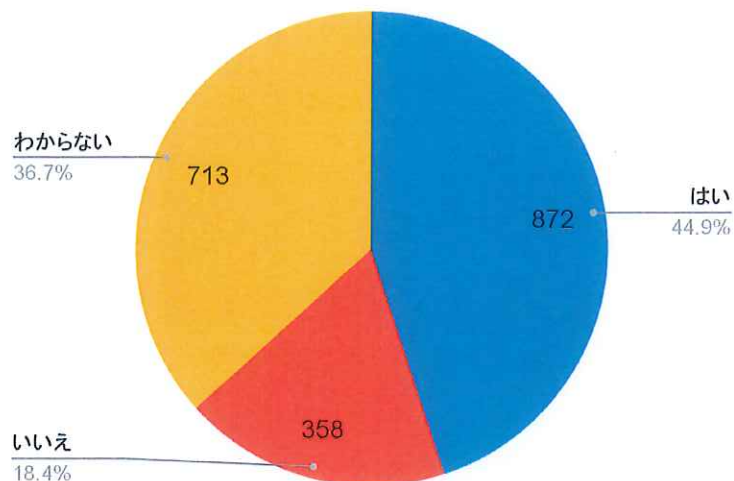


図10. 「2-2. あなたが地域医療に従事する場合に、魅力を感じる点を選んでください。(複数選択可)」 (n=1970)

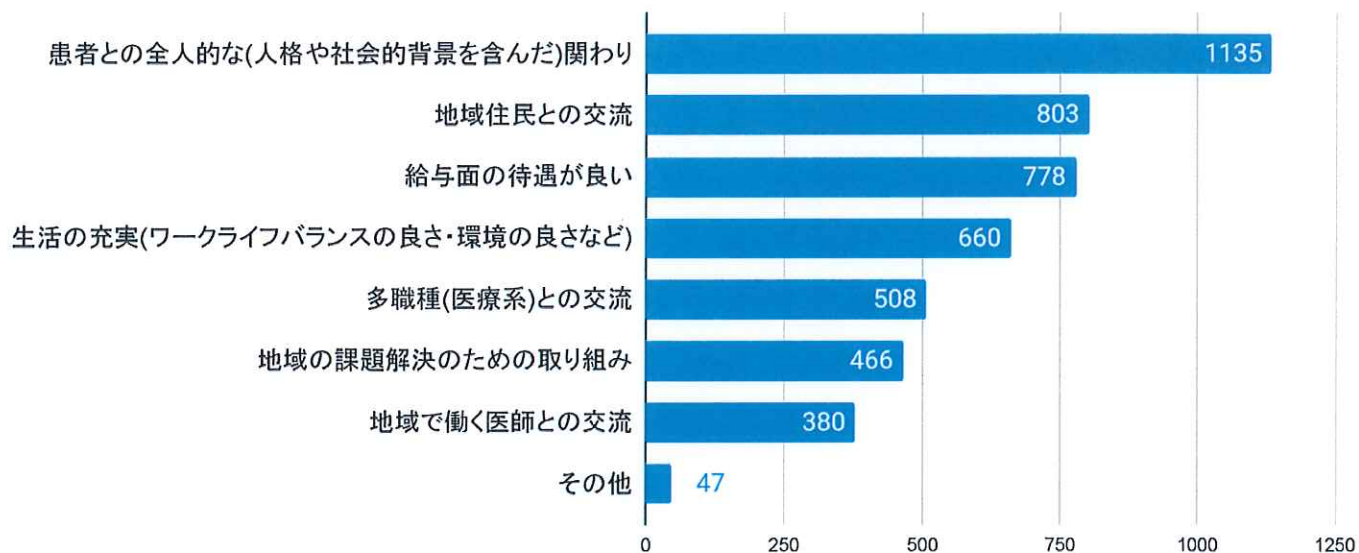
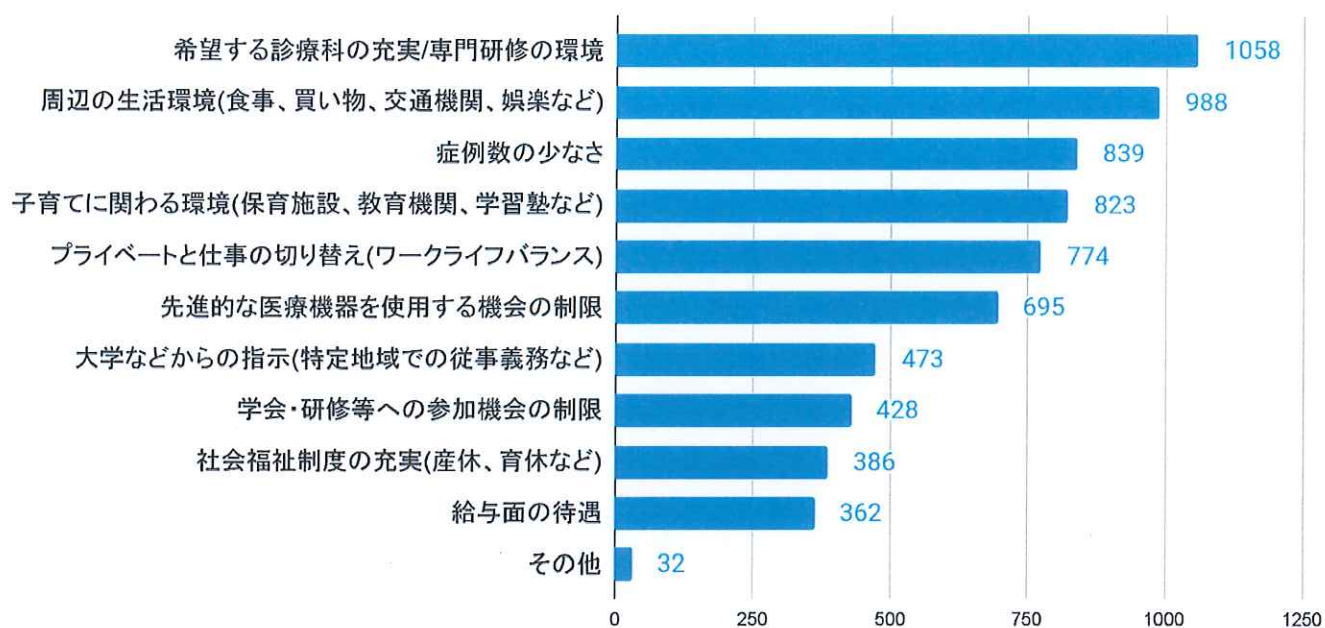


図11. 「2-3. あなたが将来地域医療に従事する場合に、不安を感じる点を選んでください。
(複数選択可)」 (n=1984)



3. 地域枠の離脱困難事例について

アンケートでは下記の説明を添えて、以降の質問を実施しました。

「地域枠とは、医師数の減少と地域間での医師偏在に対し、医師養成課程を通じた医師確保対策として、医学部入学者または在学者に設定された選抜枠で、特定地域での一定期間の医療従事義務という条件が付きます。」

3-1. あなたは地域枠学生ですか。 または、地域枠制度の利用を検討したことがありますか。

→「0. 回答者の属性」を参照。

表5. 「3-2. あなたの大学で、地域枠の離脱が困難であった事例はありますか。ある場合は、わかる範囲で詳細をお書きください。例) 相当の理由があったにもかかわらず離脱が認められなかった等」 (n=1940)

	回答件数
ある	76
ない	146
知らない	1718

具体的な事例に関しては、現在対応中です。

4. 地域枠の利用目的と事前説明

セクション4は「地域枠学生の方、地域枠制度の利用を検討したことのある方への質問」として実施しました。

表6. 「4-1. なぜ地域枠制度を利用・検討しましたか。その理由を教えてください。」

(n=567)

表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

分類	回答件数
入試戦略・難易度	220
経済的理由	161
地元志向・貢献	150
地域医療への意欲	64
受動的・その他	43
勤務場所のこだわり	15
医師へのこだわり	12
特別な制度	8
不利益を感じない	7
その他	10

4-2. 地域枠制度を利用する際、または、地域枠制度の利用を検討する際に、下記の①～④の内容に関して、下のそれぞれからの説明はありましたか。その説明の回数や内容は十分でしたか。

- 1) どのような勤務形態に従事要件が適用され、義務年限を消化することができるのか
例) 常勤医としての勤務年数のみでカウントする、週に1回指定病院に勤務すれば0.2年分としてカウントする、卒後〇年までに義務年限を消化しなければならない、海外研修ができるのか等
- 2) 離脱を認める事由
例) 退学・死亡は認めるが結婚は認めない等
- 3) 当事者間の十分な検討、日本専門医機構による橋渡しがあっても、地域枠学生・医師が都道府県や大学の同意を得ずに指定のプログラムを離脱した場合、日本専門医機構は当該学生・医師の専門研修を認めないこと
- 4) 奨学金を返済しても従事要件が残る場合があること(地域枠に関連して奨学金を借りている方のみ)
※「奨学金の返還は金銭貸借契約を解除したにすぎず、そのことによって地域枠の離脱を認めたわけではなく、引き続き地域枠入学者としての道義的責任は有している」とする都道府県も存在します。

図12. (1) の説明

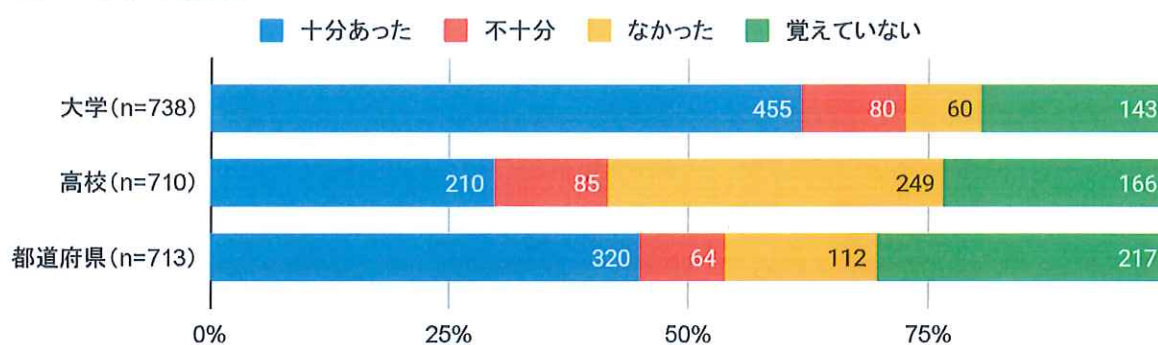


図13. (2) の説明

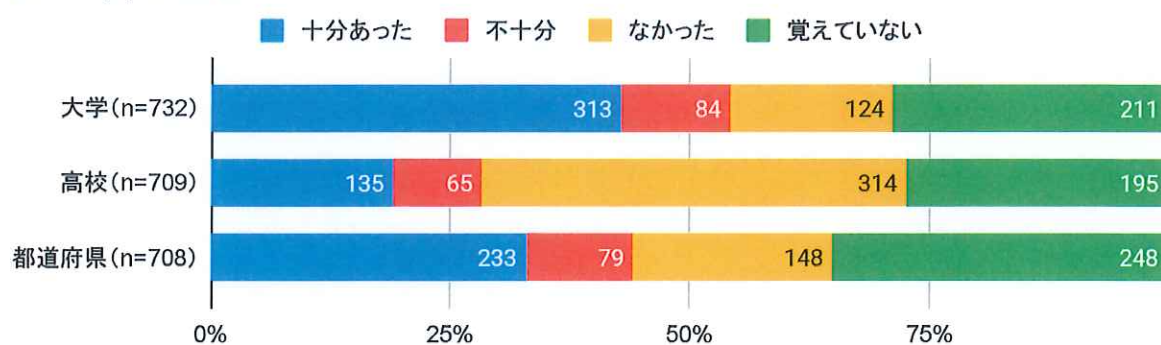


図14. (3) の説明

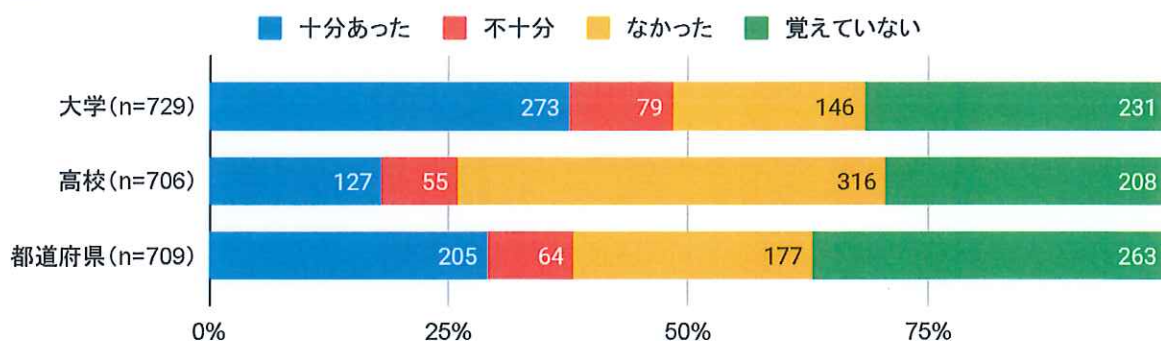


図15. (4) の説明

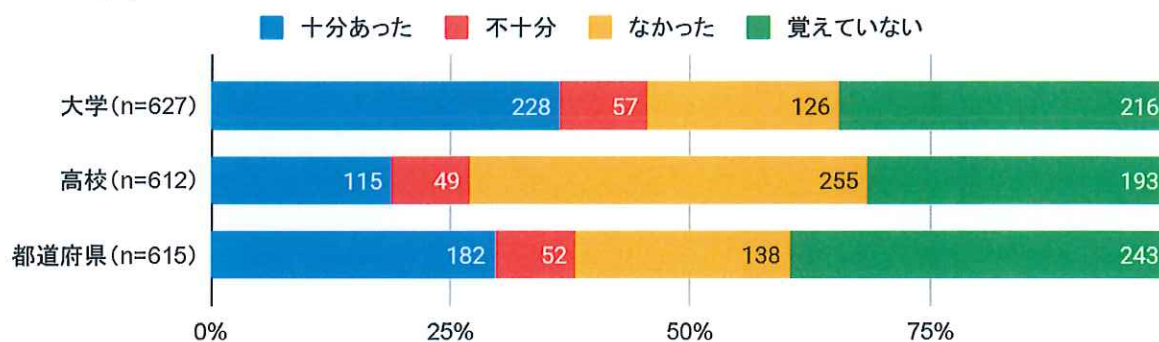


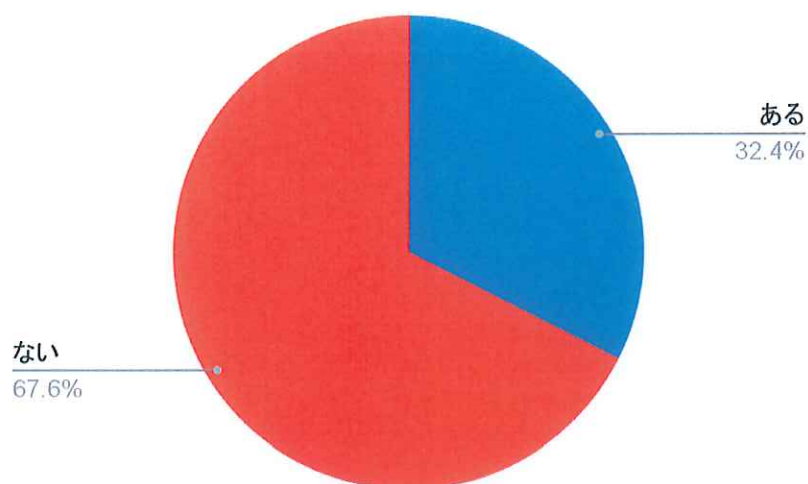
表7. 「4-3. 契約する前に説明された情報と、契約後に説明された(または知った)情報で、違うと感じた点、または契約前に説明されていなかったが契約後に説明された(または知った)情報があれば、具体的に記述してください。」 (n=137)
表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

分類	回答件数
情報提供・相談体制の不備	21
キャリア・専門医取得の制限	15
①～④について知らない	14
勤務地・勤務条件の拘束	12
返済と義務免除のルール	11
制度の変更と不遡及性の欠如	6
その他	3
わからない	2
実習の多さ	2

5. 地域枠の離脱

セクション5（以降）は、地域枠学生を対象に実施しました。

図16. 「5-1. 地域枠を離脱したいと思ったことはありますか。それはなぜですか。思い留まった場合、その理由も教えてください。」



表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

表8. 地域枠を離脱したいと思った理由
(n=142)

分類	回答件数
キャリア・専門性の制限	61
環境・ライフスタイル	44
ライフイベント・人間関係	34
経済的な理由	10
自己の変化・健康	8
制度への不信感・心理的負担	6
義務年数	3
入学目的・入試の点が良かったから	3
メリットがないから	2
将来への不安	1

表9. 地域枠を離脱したいと思った理由
(n=76)

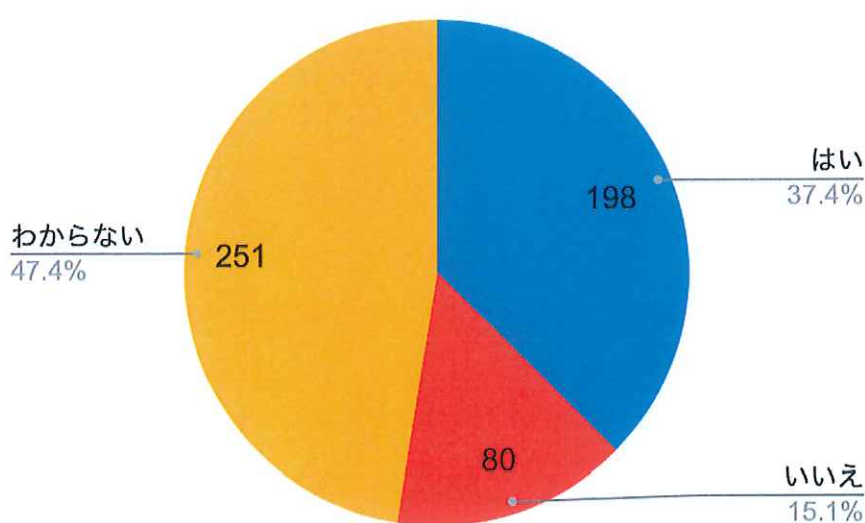
分類	回答件数
制度の肯定・現状維持	24
地元だから	22
倫理・責任感	9
経済的制約	7
キャリア上の不利益（ペナルティ回避）	2
充実したサポート	2
コミュニティーの存在	1

表10. 「5-2. 厚生労働省が示した地域枠離脱となる場合の例として、留年・国家試験不合格・退学・死亡・国家試験不合格後に医師になることをあきらめる場合があります。これらの他に、地域枠からの離脱を認めてほしい事由はありますか(プログラムの一時中断・期限延長で対応できるものは除く)。その理由とともに教えてください。」 (n=95)

表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

分類	回答件数
結婚	43
介護	16
出産/子育て	14
家庭環境の変化/家庭の事情	10
キャリアの変更	10
健康状態/心身の不調	9
経済的清算による合意解約(契約論)	9
制度の不条理・信頼関係の破綻	7
留学・研究	5
専門医取得のため	3
その他	3

図17. 「5-3. あなたの大学で地域枠を離脱する場合、奨学金の返済の他に、違約金や高額な利息などの支払いは必要ですか。」 (n=529)



6. 地域枠学生に対するキャリア支援

セクション6は、地域枠学生を対象に実施しました。

図18. 「6-1. 在学中、地域枠入学者のキャリア形成に関する支援(講義、面談、実習など)を受けたことがありますか。」 (n=532)

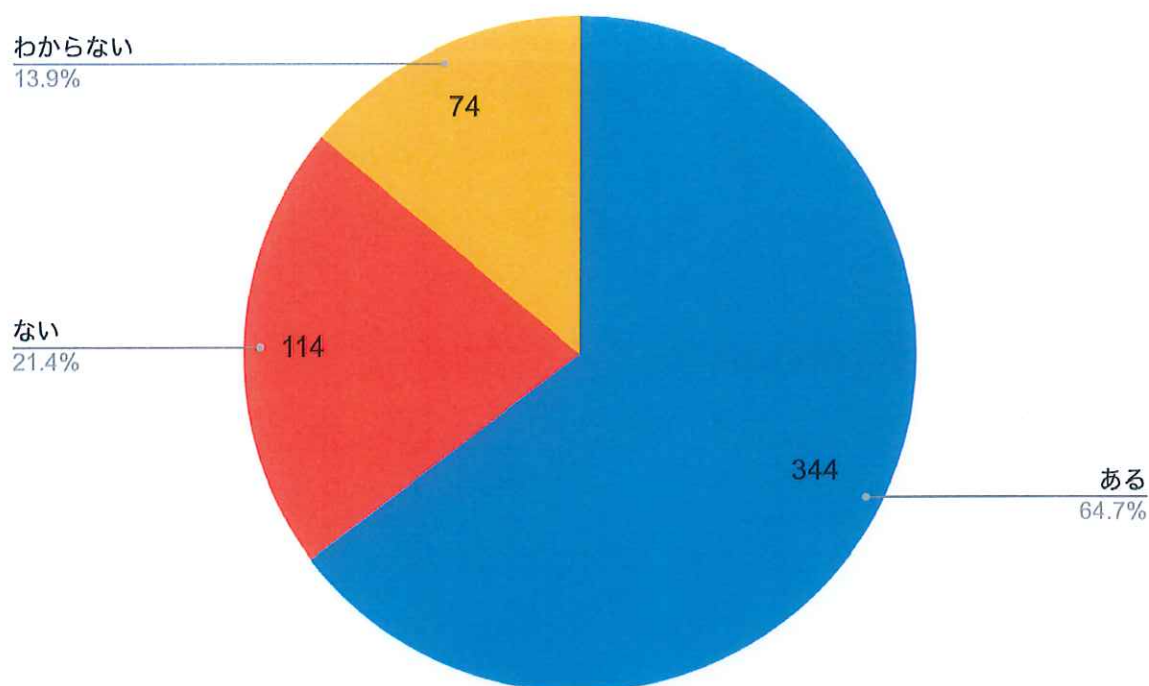


図19. 「6-2. その支援は、将来のキャリアを考える上で役立ちましたか。」 (n=522)

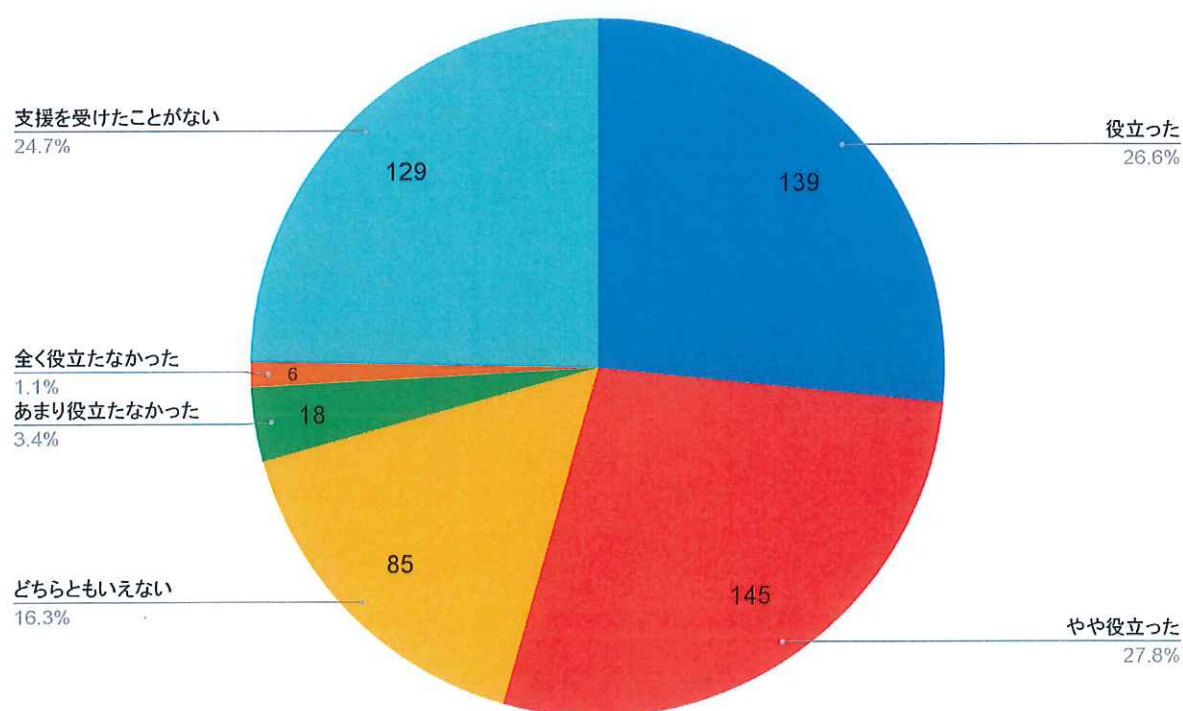


図20. 「6-3. 卒前のキャリア支援に期待していることを教えてください。(複数選択可)」
(n=521)

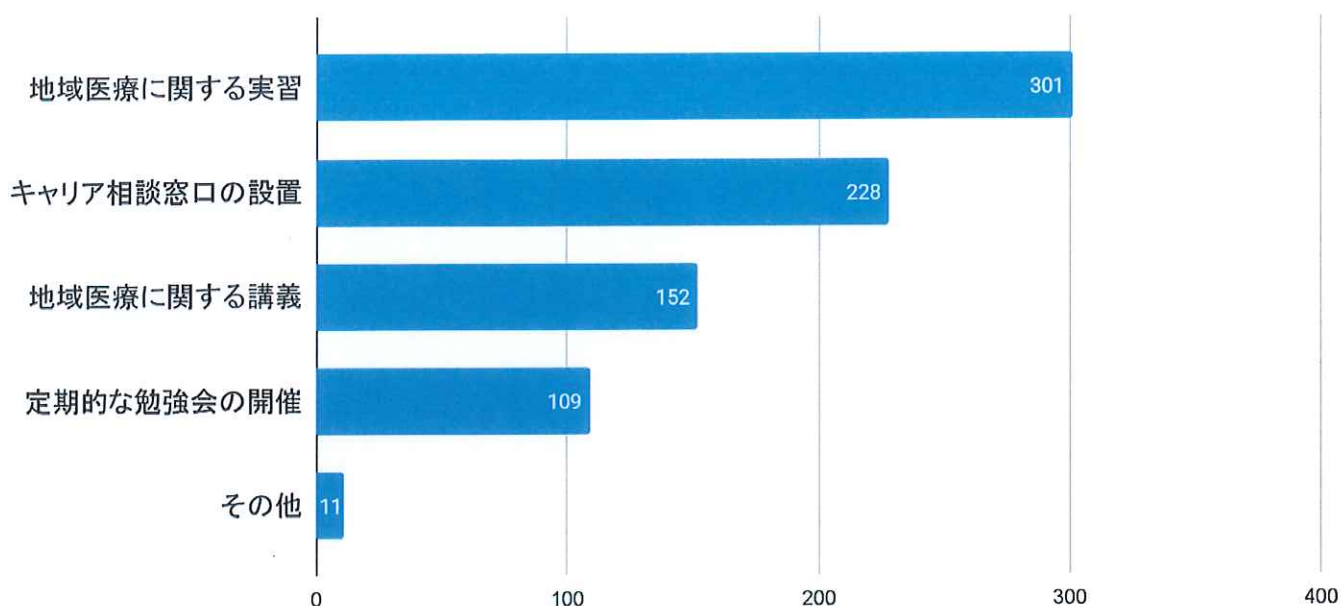


表11. 6-3 「その他」の内容

地域枠同士の交流の場。ただ交流があればよいわけではなく、質的に良い場創りをしてほしい。
利子が消えること
給料
実際に従事する先輩との交流
キャリア相談の実施
地域枠契約についてのわかりやすい説明
考えていない
方言を学ぶ場
何も期待できない
低学年のうちから地域枠向けの交流会、学習会がほしい
全部

図21. 「6-4. 卒後のキャリア支援に期待していることを教えてください。(複数選択可)」
(n=525)

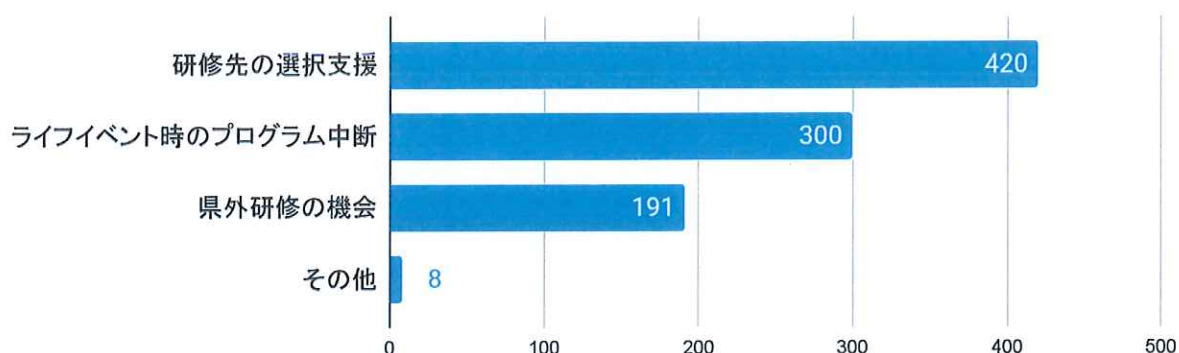
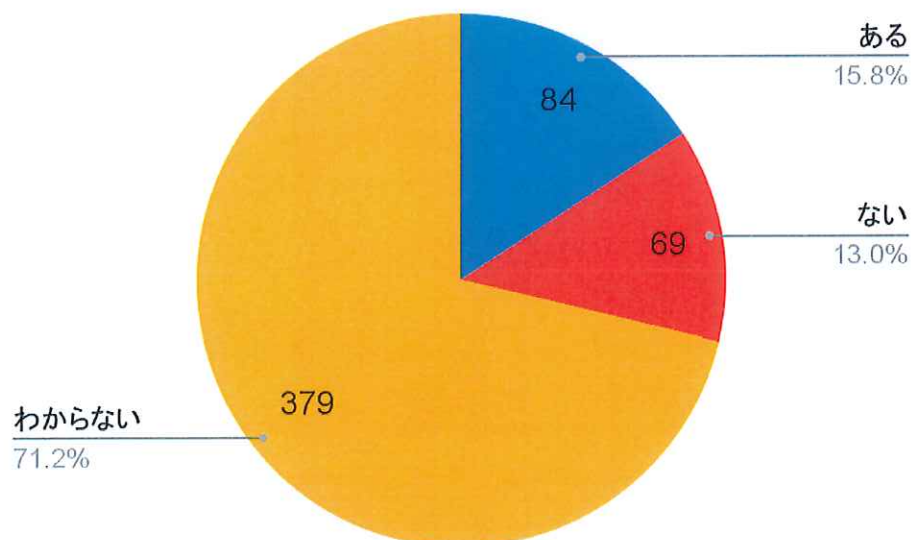


表12. 6-4 「その他」の内容

産休後の空白を埋める補填プログラム
具体的な事例に沿った説明。
税免除
外科などの症例、地域でも専門家の修練ができる仕組み
留学機会
考えていない
学会の参加
留学

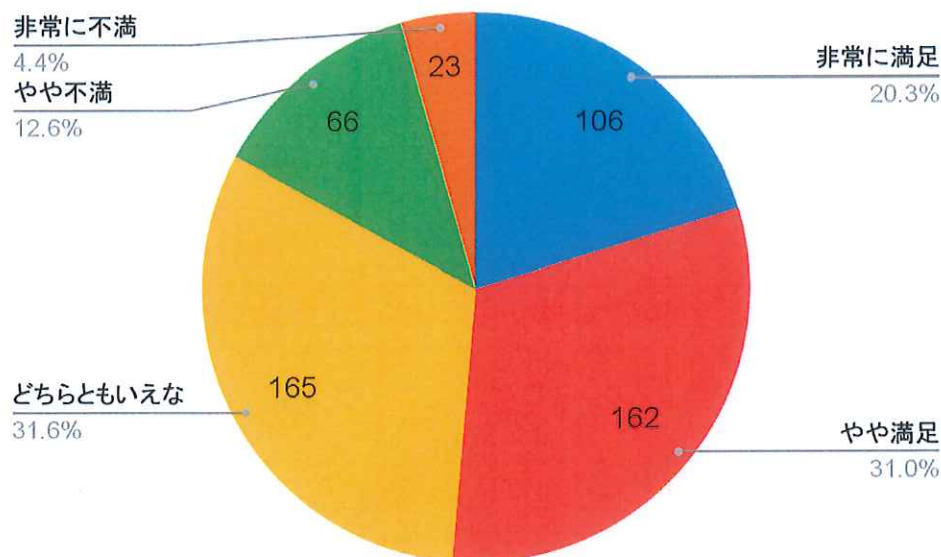
図22. 「6-5. あなたの大学の地域枠では、専門研修において、義務年限中に取得できない基本領域(内科など)またはサブスペシャリティ領域(消化器内科など)がありますか。」
(n=532)



7. 地域枠学生の満足度

セクション7は、地域枠学生を対象に実施しました。

図23. 「7-1. 地域枠を利用したことについて、また、地域枠学生として在学している今現在の状況や将来のことについて、どう感じていますか。5段階のうち当てはまるものを選んでください。」 (n=522)



7-2. その内容、理由を教えてください。
表は自由記述の回答を分類・集計したものです。

表13. 満足している点 (n=257)

分類	回答件数
経済的支援・生活の安定	101
キャリアの確実性・就職サポート	45
現状への満足	34
教育・実習の特別感（付加価値）	31
帰属意識・コミュニティ	25
地元貢献・自己実現	21
支援の充実性	6
大学の進学	4
わからない	3
人脈	2

表14. 不満な点 (n=245)

分類	回答者数
キャリア形成・専門性の制限	100
制度の設計と説明の不備	38
ライフイベント・私生活への影響	35
義務年限	23
心理的・経済的プレッシャー	11
金銭的な支援の欠如	10
メリットがない	4
実習・交流	3
考え方の変化	1
制度の中の不公平	1

8. 一部データに対する追加分析

8-1 離脱時の違約金や高額な利子等についての状況

「5-3. あなたの大学で地域枠を離脱する場合、奨学金の返済の他に、違約金や高額な利息などの支払いは必要ですか。」を大学別に見ると次のような結果が得られました。

- ・ 回答者が所属する大学の数（A）：28
- ・ 5割を超える所属者が「はい」（支払いが必要である）と回答した大学数（B）：15

➤ 5割を超える所属者が「はい」（支払いが必要である）と回答した大学の割合
= $B/A \times 100 = 53.6\%$

8-2 地域枠学生に限定した分析

「1-4. 大学や都道府県に設置されているキャリア相談の窓口に相談はしやすいですか。当てはまるものを選び、その理由も教えてください。」を地域枠学生に限定して分析すると、次のような結果が得られました。

➤ 43.2%の地域枠学生がキャリア相談の窓口を「知らない」と回答しました。そのうち、45.3%の学生はキャリア相談窓口の設置を望んでいます（図24）。

「6-1. 在学中、地域枠入学者のキャリア形成に関する支援(講義、面談、実習など)を受けたことがありますか。」に対して、学年別、大学別で分析をしました。

➤ 21.4%の地域枠学生はキャリア形成に関する支援（講義、面談、実習など）を受けたことが「ない」と回答しました（図18）。

➤ 学年別で見ると、どの学年でも一定の割合の学生が支援を受けたことが「ない」ことがわかりました（表15）。

➤ 大学別でみると、大学によってかなりの差があることが示唆されました（表16）。

図24. 回答者を地域枠学生に限定した「1-4. 大学や都道府県に設置されているキャリア相談の窓口に相談はしやすいですか。当てはまるものを選び、その理由も教えてください。」
(n=548)

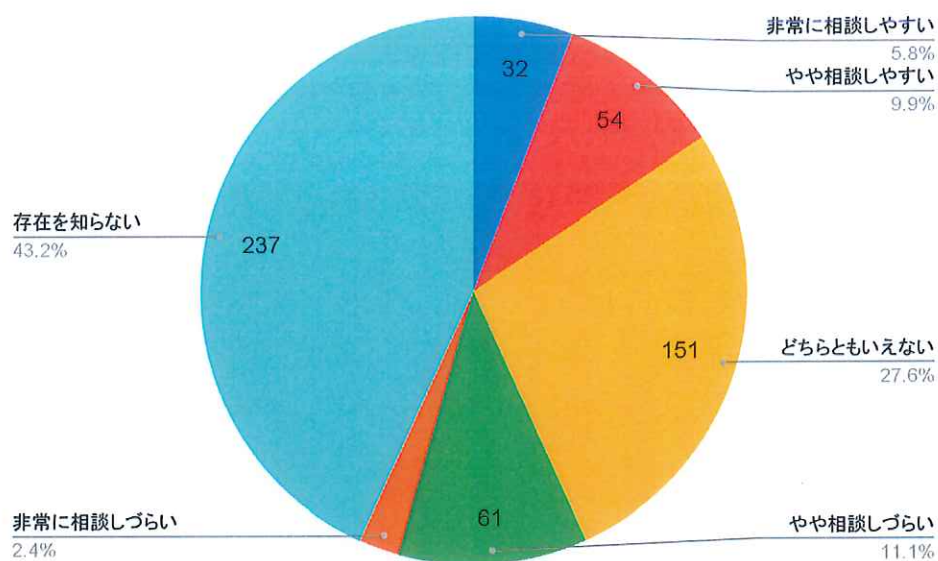


表15. 学年別 (n=532)

	支援を受けたことが「ない」 (%)
1年	20.8
2年	17.8
3年	24.0
4年	25.4
5年	10.0
6年	19.0
全学年	21.4

表16. 大学別 (n=442)

	支援を受けたことが「ない」 (%)
A大学	36.9
B大学	19.7
C大学	15.4
D大学	9.5
E大学	8.0
F大学	6.7
G大学	0.0

(回答数20件以上の7大学)

「6-3. 卒前のキャリア支援に期待していることを教えてください。(複数選択可)」で「キャリア相談窓口の設置」を選んだ地域枠学生 (C) =101
キャリア相談窓口を知らない地域枠学生のうち6-3に回答のある学生 (D) =223

- キャリア相談窓口の存在を知らず、キャリア相談窓口を求めている地域枠学生の割合=C/D×100=45.3%